

核の信託 —原爆をだれの手にゆだねるか—

本とDVD であの感動をもう一度



本 1000 円 (税込 送料共) 御注文はアジア文化社まで
DVD 1500 円 本+DVD 2000 円 (送料とも)

写真 松本和幸

ジョン「結局、君の言う通りになってしまった。爆弾はこのままで行けば、日本に落とされるだろう。日本にだって、軍人ばかりじゃない。君と同じような、家を守る主婦もいれば、若い女性もいる。子供たちも、老人もいる。平和を願う人たちもいる。その人たちもみんな、無差別に、とんでもない爆弾が襲うんだ。それは、瞬時にしてこの世を地獄に変えるだろう。僕は大量殺人に手を貸すのか。もしそうだとしたら、結局それは僕たちにも返ってくるだろう。僕たちの生活の上に落とされ、僕たちはみんな死んでいくだろう。ヘレン、僕は苦しいよ。この仕事に参加しなければよかった。あのとき、君が言うように、マンハッタン計画への参加を断って、地方へ行ってしまうほうがよかった。避ければよかったんだ。しかしもう僕は、手を染めてしまった。悪魔にこの手を捧げてしまった。僕の手は永遠に血塗られることになるかもしれない。ヘレン、僕はどうすればいいんだ。僕にはわからない。この苦しみからどうすれば救われるんだ。ヘレン、答えてくれ」

(ジョン、頭を抱える)

ヘレン「ジョン、あなたのせいじゃないわ。科学だけのせいじゃない。戦争がいけないの。憎しみがいけないのよ」

サンギエ「新たな戦争は今回のように、四年も、五年もかかりはしません」

ルーズベルト「何を考えているんだ、おまえは」

サンギエ「閣下が想像することです。アメリカ軍は、世界最強の空軍を持っている。P51戦闘機、グラマン戦闘機、航空母艦の大艦隊。さらに決定的なことに、B29という超爆撃機を三千機持っている。高度一万メートルを飛ぶこの飛行機にはどんな高射砲も届かず、どんな迎撃戦闘機もその高さまで昇ってこれない。制空権がすぐにアメリカの手に落ちるとしたら、次の戦争は一週間で終わってしまいます」

ルーズベルト「おまえはまさか……」

サンギエ「お察しの通りです。魅惑に駆られませんか。私はただあなたの心の中にある一部を覗き込んだだけです」

ルーズベルト「ソ連と新たな戦争を起こせということか」

サンギエ「共産主義との戦いで、第三次世界大戦が起こっても不思議ではありません」

ルーズベルト「この地上から、ソ連という国を消し去れということか」

DVD もあります 注文はアジア文化社まで